

# 幼 兒 教 育

第 二 十 二 卷 第 十 二 號

大 正 九 年 十 二 月 十 五 日 發 行

## 目 次

幼兒と宗教心	姉崎正治
眼の衛生	石原博士
秋の蟲・山の向ふ	神戸市保育會
風車・水車	大阪市保育會
お伽噺と幼稚園童話	萩野ヒサ
玩物使用法とその效果	久門嘉祐

## 雜 報

日本幼稚園協會評議員會・京阪神保育會・福島縣保育會・其他

日 本 幼 稚 園 協 會

## 會 告

○會費御拂ひ込みの節は御名前初め御入會の時の御名前と御同一になし下され度く、例之ば初め幼稚園名にて御入會、後、個人の御名前にて會費御拂込み等のことなき様必ず願上候整理上甚だ煩雜致し候につき右特に御注意願候

○會費未納は會計整理上甚だ困難致候に付確實に御納付下され度向後萬一御不納久しきに亙り候場合は乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左様御含み置願候

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願上候

○萬一本誌不著等のこと有之候折は直に御一報煩し度候

## 本誌定價

一冊(郵稅共)金貳拾五錢 六冊 前金壹圓五拾錢  
十二冊 前金 參 圓 (郵券代用壹割増)

## 購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

大正九年十二月十二日印刷  
大正九年十二月十五日發行

東京市下谷區花園町一番地 編輯兼發行者 黒 瀨 豐  
東京市本郷區駒込林町百七十二番地 印刷者 柴 山 則 常  
東京市本郷區駒込林町百七十二番地 印刷所 杏 林 舍  
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

發行所 日本幼稚園協會

本誌は最も平易な、最も教育的な子供繪雑誌たるべく苦心して居ります

コドモ

良友

童話

本誌はコドモの兄様姉様に當り、小學生の讀物として最も適當な雑誌です

近來子供雑誌や繪本類が非常に多くなつて、既に二三十種に達してゐる。

世の父兄諸氏は、この多くの同種中、はたして何れを子弟の爲に選ばるゝであらうか。

單に玩具と見做して、その選擇を慢然兒童の取捨に一任して置いてよいであらうか。

東京市小石川區 東林町五十七番地 發行所 小石川電話 二九二六 一六二二 社モドコ

四六判上製本全一冊  
定價金參圓八拾錢  
送料金拾貳錢  
優美なる新裝函入

新刊

幼見<sup>に</sup>聽かせるお話

發行所  
內田老鶴園

目丁二町馬傳大區橋本日京東

振替東京壹貳肆六番  
電話花壹參參五番

切れぬ内に速くく!!

このお話の本は、お茶の水の幼稚園に於て數年に亘つて、園兒に聞かせたお話の中から、子供が三度も五度も繰返して聞きたがつた特別に面白いものを、更に百種選り抜いたものです。つまり無邪氣な、眞實な子供によつて、嚴密な審査を経た譯で、すから、幼稚園は申すに及ばず、一般の御家庭でも安心して、すぐ其儘讀んで御聞かせになる事が出來ます。其上倉橋先生の「幼兒教育の手段としてのお話」と言ふ講話を附録として添へてある事も、此本の特色です。編者は自信と勇氣とを以て、皆様に御勸め致し得ることを悦びます。

いさ下覽御を次目の容内い白面●

蝶●指太●百三三さん権藏さん雲雀  
 花●莠雄さん玩具の夢と鯉藏さん燕の  
 旅行●太郡●青蛙物語の羽折れ船小人の  
 笛●太郡●ひきがへるお日様の羊と狼の  
 人形●狐の旅行●お星様●河童の話  
 さん●七夕様の木●水遊び●雷様の太鼓  
 話●富子さんの風船●毬ちゃん●白兔の  
 雄雞さんのお日様の飛行機●鈴屋の黒の  
 客園●日本一の飛行機●白兔の腹  
 鼓●お地蔵様の太陽と高天狗の足  
 ナチアとマヤチア●太陽と高天狗の遠  
 兎の柄柄引つれた象の魚釣  
 象と鯨の綱引●太郎の首●三匹の熊  
 の白犬喰ひ●太郎の首●三匹の熊  
 風船●三匹の鼠●虎！虎！虎！  
 ぱり猫●角力●つっこ●日の丸の國旗

鬼の片耳　熊太　雪の朝　雪の御殿  
●雪姫　さ　鶯の話　小人島　豆蔵の行殿  
主　トロヤ　叔母さん　ごんり小坊  
車煎餅　人形の木馬　コロリ爺さん  
車のお客様　招待院　桃の種　可愛ら  
●國の菓子　世界　●菓子の御殿　動物園  
●國の鴨　權兵衛　一寸法師　●物  
達　鳥と歌の戦争　小さいパン　●鬼の  
御殿　不思議な筆　●アリス物語

附　　録　　●幼兒教育の手段として  
のお話　●お話の本質及價值（とて  
話の定義　●お話の起源　話と手と隠き  
手）●お話の形式的價值　●お話の内容の  
價值　●第二、お話の心理的内容（再生  
的な問題　●欲求的な問題　●第三、お話  
の選擇内容（自分から見た選び方　●幼  
兒の方から見た選び方　●本質から見た  
選び方）●第四、お話のつくり方（光量  
）●第五、お舞臺の中心點　●主副的關係  
）●舞臺面　●舞臺の仕方（眞實に感ずる  
事　●言葉使い　●身振り　●子供との同答  
●お話のこまひ方）

# 幼兒教育

第二十卷  
第十二號

大正九年十二月十五日發行

## 幼兒と宗教心

文學博士 姊崎 正 治 談

通常、子供は罪のないものであると考へてゐるが、これは一種の理想化した考で、見方によつては、子供は頗る主我的のもので、自分の生命慾の本能のみで生きてゐると考へてもよいと思ふ。ことに、三歳四歳頃はこれが著しいが、やがて、四歳五歳位になると模倣全盛の時期になる。大人の言動を何でも真似る、しかし、それも自ら真似ようと思つてする——所謂、有爲模倣——の場合よりも自然にしらす——真似る——無爲模倣の場合が多い。

宗教の方面からこの時期を考へて見ると、三歳位の幼兒期には、全く宗教はわからない。しかし、四五歳頃になれば、模倣によつて宗教心があらはれて来る。この時期は自ら反省するといふことは勿論ないのであるが、外部からの印象によつてどちらにで

も動いて行く時期である。實に、有爲無爲の教育はこの時期に始まるのである。言語の如きは、すてゝをいても何時の間にか覺えるもので、二ヶ國や三ヶ國の言葉はこの時期ならばたやすく覺え得る。この状態を模倣性の、或は、被暗示性のつよい時期といふのである。それ故に、宗教心の養成はこの時代から初まるべきもので、これ以前には、あり得ないのである。この時期において印象をのこすのは、主として、成人の宗教的動作に對する模倣であつて、信仰の教理は勿論わからないのである。よし、言葉の上では真似ることはあつても、それは何等意味をなさぬのであつて、後に、感化としてのこるものは、動作そのものである。この點は頗る重要な點で、かの原始人の宗教についても、宗教心の發動は、先づ

儀式が先で、信仰がこれにともなふのである。

そこで、たゞ動作を模倣するといへば、外面的のやうに思はれるが、事實さうでない。我々の精神作用は、幼稚の時代ほど、動作の方面から精神におよぼすことが多いのである。動作をするといふことが、觀念よりも先になつて、即ち宗教上の動作をまねてゐると、やがて、ありがたいといふ感じをおこし、それが後に一定の觀念に結晶して來るのである。但しこの場合にも、教理は勿論與へられる。例へば、キリスト教の家庭では、神とかキリストとかいふことは宗教上の動作とともに教へこまれ、子供はこれをうけいれる、そして質問もする、けれどもその答の如何に對しては、頗る吞氣なもので、たゞ答へて貰へばそれで満足してゐる。したがつて教理に對しての質問といつても、それは發達した大人が眞理をもとめんとするの熱心から發するやうなものではない。そこでこの時期に教理を與へるといふことが既に問題である。ごく幼稚な頭に信ぜられるやうにするにはまた、幼稚な具體的なものにしなければならぬ。これについて面白い例がある「神は天にゐます」。とか「高きところにあゐます」。とか教へられた子

供がある時、電信柱にのつてゐる工夫を指して「母さん、あれは神様？」ときいたり「神はゐなさざる所なし」ときいて壁に脊をうちつけて「神様は何處にでもゐらつしやるから僕のうしろにもゐる。神様をつぶしてしまへ」とりきんだり、雨がふるのを恨めしさうにながめて「困つたなあ、神様が天で水道のねぢをあけつばなしにして、しめるのを忘れてしまつて」。とつぶやいたり、子供の信ずる神はことごとく具體的なものである。しかも、これは成人の後には當然やぶれてしまふものである。そしてこの、幼時からもつてをつたものゝ破壊される時が危険なのである。

しかし幼時の場合に動作の方面から自然と宗教的外圍の中にをく様にすればこの憂は少ないわけである。即ち一つ一つの動作を見習ふとともに、それからうける感化は、その動作によつておこされる感情そのものである。情緒そのものである。

他人の動作を見て、これにともなふ心持を直覺するその鋭さは、我々大人の到底及ぶところではない。子供は實に感じそのものを、心持そのまゝを、そつくり受け取ることが出来るのである。大人に接した時に子供はすぐ、子供好きの人と否とを區別する。

常に子供嫌ひの人が、何かの必要上、急に、機嫌をさるやうにしても、子供の方では、よく知つてゐるから、かゝる大人にはよりつきもせぬのである。子供は大人の態度、その動作によつて直感する。

宗教上、禮拜の時に子供が列席する、教理も説教も一向にわからない、何故ならば、これらは知力的方面のものであるから。しかし禮拜の心持といふものは自然に子供の心に得られるのである、そして、これがまた根本條件として必要なものである。「神様が助ける」とか「佛様が助ける」とか教へたところで、彼等には、助ける、といふことが既にその意味がわからないのである。大人の動作を模倣し、その心持に同感してゆくそのうちに、具體的の經驗をまねると同時に、その有する觀念をうけるようになるのである。この同感といふことが大切なことで、我々の生命に對する同感の發達が宗教となるのであるが、この同感が直接に與へられるのは家庭である。信心深い親兄弟の動作を見真似ねてゐるうちに、子供も自然に信心の心持ちになる。これが一番無理のない方法である。近頃は日曜學校なども發達して、宗教教育の問題もいろいろ言はれて居るが、知力的方面か

ら與へようとすることはあまり效がない様である。日曜學校へ行く子供について、或は幼時にその記憶をもつてゐる人々についてきいてみても、例へば基督教にしても、神とか救主とかいふことは、いくら、具體的にくだいて教へこまれても、あまり興味をもたず、それよりも、大勢で一緒に歌をうたふといふことを深く印象されるのである。しかし、とかく禮拜といへば、大人本位で、子供はこれにつれられて行くといふ感があり、また子供のために出來た日曜學校組織が、折角、宗教的氣分の根本を與ふる禮拜をやめて、たゞお話により教訓的に教理を教へこまうとする。そのためにかへつて効果をあげてゐないのではあるまいかと思はれる。子供のための禮拜をして、子供相當にその氣分を味はせるようにしたならばどんなによいかと思ふ。

小學校あたりで、一年二年位の生徒をつれて神社に詣でる時でも、引率する先生が、たゞ何となしに難有くなつて自然と禮拜をする。これを見れば、結構であるが、禮拜氣分を味ふまへに、いろいろ禮拜すべき理由などを説明して、「それ故に皆様は敬禮しなけ

ればなりません」といふやうに來るから、禮拜の氣分に自然なところが缺けて、その態度が、どうもかたくなり過ぎる。「氣を附け！」の姿勢をとつてそれから上體を何度まげて敬禮するといふやうでは、とても、ゆゑりのある禮拜氣分にはなることは出來ない。身體の緊張状態をつゞけると、たゞかたくばかりなつて、精神的の自由發動がまたげられるから、足元の方がかへつてフラついて、肩が凝つてしまひ、折角、神様のまへで敬禮はしても、心持はゴツ／＼した窮屈なもので禮拜そのものから受ける動作の面の感化はよくないものになりやすい。一番大事なことは、ゆゑりのある心持で禮拜をする態度をとることである。さうした氣分の漲つた集りの中に子供をたゞ入れてをけば、何も理屈をさかなくても、否、理屈をいはない方がかへつて禮拜そのものを直覺させることになるのである。たゞ、子供は實に活動性に富んだものであるから、同じ姿勢をいつまでもとつて居られるものではない。たへず動く、この點もよく子供の心に同情して、その禮拜の間にも子供は寛大にとりあつかつて自然のまゝに適當な變化をゆるしてやるやうにすればよい。ことに、このために

は先づ各々の家庭が直接の力となるのに一番都合がよいのである。教會などといふ團體の中にあつてただ抽象的の話をきかせられおとなしくせよと叱られわけもわからずに窮屈な感じをあたへられるよりも家庭の眞情のこもつた人達が、信心深い動作で、禮拜する中に子供を坐せしむることがどれ位印象ふかく、また弊害が少いことであらう。

靈の交通を自ら信することも出來ないで、口に祖先崇拜をさくことが偽善であるやうに、熱烈な信仰のないものが、たゞ子供に宗教心をやしなはせようごあせつても甲斐はない、

たゞ以上のことにつけ加へて必要なことは人の動作が大きな感化をあたへると同時に、その周圍の美的の状態による感化といふものも考へねばならぬ。これは發達の度のひくい時代ほど、これからうくる影響が大きいからである。我々にしても、佛像を電燈の光で見た時と、蠟燭のゆらめく焰でうかつた時とは、同じ佛に對しても、うくる感じが違ふ。この微妙な感じをことに鋭くうけ得る時代には、この邊のことに ついても、また氣をくばる方がよい。我が國で神棚と稱して、家々にまつてゐるものが、



どうも、埃<sup>ほこり</sup>だらけで、まことに貧弱である。あれでは、お祖父さまやお祖母様<sup>おばあさま</sup>が、朝夕拍手<sup>かっしやう</sup>うつて拜するのを見まねる子供にしても、崇高といふ感じはおこりにくからうと思ふ。

子供に宗教心を養ひたいと思ふならば、先づ我々自らが信仰の中に生き、しかも、彼等により大きな感化を與へ得るような環境をつくるといふことが何よりも大切なことであると思ふ。(文責記者)

これは姉崎博士の帝大に於ける宗教學概論の御講義の中のある時間のお話でした。とかくいろ／＼に考へられ易い問題とて、皆様にも御紹介したく先生の御校閲を経る暇もありませんでしたので、たゞおことはりだけ申上てこゝにのせました。伺つてゐるうちに、それからそれ自分の頭にうかんで來たことがありまして幾分これをまぜて書いてしまつた點もあります。

ことに、子供が信するものが如何に具體的であるかといふことについては、私共、子供を大勢とりありかつてゐるものゝ常に感じ、また時に嘖飯させられることが屢々あることゝ思ひます。私共は具體化さ

れた神を偶像といつて退けます。しかし子供にとつては無形<sup>むけい</sup>といふものは考へられません。姉崎先生が動作から印象を與へるようにとくりかへし／＼仰せになつたことに私も深く共鳴しました。よく私共の聞くことですが、大人になつてからは信仰になかなか入りにくい、それにひきかへて、子供の時分にしみこんだことは、力づよいものがあるといふのも、大人になつてからはそれが理屈から來るためでせう。理屈なしに、たゞ何となく難有く、うれしく、尊く思ひこんではいつたものは、いつまでも自分から離れません。この意味で小さい頃から信心ぶかい家庭にそだつて、いつとはなしに信仰に入つた人は、動かないあるものを握つてゐると思ひます。勿論さうした人に偏狹な考の人が往々あつて他宗教の人を人間でないやうに見る人がないでもありませんが、いろ／＼の思想の動搖にあつても尙自分の中にうごかせないものをもつて居るといふのはやはり幼時にうゑつけられたものが多いのです。理屈は人によつて變り、思想は日に日にうつて行きます。理屈から信仰に入り得るとすればそれがまた動搖するのも無理のないことでせう。「何とはなしに」といふものを自分のう

ちにもつてゐるその力つよさは、感じ、そのものからうけとつた力に相違ありません。よく所謂宗教家が、理屈づめに、幼ない者等に神を説いてきかせてゐるのを見聞する時に、思はず眉をひそめます。なぜ、その教へる人自ら敬虔にぞんだ心で、しんみりと禮拜する心持にあるひは讃仰する態度に出て、子供をその中にひきこまないのかと思はざるを得ません。

「神の存在」といふ深遠な哲理を具體化しようとするのが間違ひなのではありませんまいか。子供が何かいたづらをするとき「神様は其處に見てゐらつしやる」といつて母親はこれをいましめる。神様も巡査がはりになつてしまつては大變です。叱るなら母親なり兄弟なりが自分のつよさで叱つたがよいと思ひます。神様をそこまで引おろして叱らなくても。かうしてしらすしらす子供の心に宗教心のまちがつたものを與へるのは恐いことであると思ひます。

氣分をつくるといふことから云へば子供が日曜學校に行き、一緒に歌をうたつたり、美しい音楽をきいたり、綺麗なカードを貰つたりして喜ぶのは子供にとつて幸福なことです。その何とほなしの嬉しさの中に、祈りをきき、聖句を片言まじりにおぼえて、

目に見えざる世界、神の存在にいつしか心持がひろげられて行く様になればよいのです。

前述の御話の中に美的の狀態といふことがありますが、私自身これをつよく感じた經驗があります。それは以前に幼稚園に居りました頃ある小春日和の土曜に、二十四五人の幼兒をつれて散歩に出ました。ふと、通りがかりに駿河臺のニコライ堂の中を見物しようと思ひました、腕白ざかりの子供二十餘人、ごた／＼と参りましたが、會堂の留守居も快く入れて呉れました。私は、別に静かになさいとも、列をい、てこも申しませんでしたのに子供等はそつとあるき初めました。何時も廊下をガタ／＼とはしる子供もどうしたのかとおもふ位、むしろ可笑しい迄にしのび足の姿です。初め入口のところに立つた時、あの伽藍の中で、——いろ／＼の尊像や、額や高價な裝飾具など置いてあるあの大伽藍の中で——、ワツと走りまはれたらば——といふ懸念が頭にひらめきました。しかし、その時私の心持は、大變おちついてしまつて、「静かに」といふ一こともいひ忘れませんでした。ところが、彼等はどうしたのでせう、いつの間にかはいらしい二人づゝの列をつくつてゐます。

ゴトンとも音をさせずにあるいて來ます。そして金ピカの繪や、像を、うれしさうに眺めながら、時々、「先生、あれなあに」ときくのも、私の耳元に小聲にささやきます。私はどうしたところかどびつくりしました。全くこれは、あの崇高な建物が、彼等に美的な宗教的な感化を與へたのです。一瞬も口をやすめず喋舌る子供等が、三十分近くの間、伽藍の中で、たいうれしさうに、珍らしさうに、そしてまた、電氣にでもうたれたやうに、靜かに居りました。ことに正面の禮拜堂のところで、可愛い頭をさげてゐるのには驚きました。私はこの時しみじみ子供は感ずる。その感じを尊重したいと心にくりかへしたのでした。このこと以來、私は、幼稚園の保育室で子供のさわぐのを制する勇氣がなくなりました。設備といふことがどんなに子供の氣分の上に影響するかと思ひました。經費のゆるさないためとは云ひながら、天井の低い、壁のうすい、そして裝飾の貧弱な室内にゴタ／＼と大勢の子供が窮屈にはいつて、それで靜肅にそのぞむのは自制力の少ない彼等には無理な注文かとも思ふようになりました。口ではすくとも、説明しなくても、彼等は正直に環境の影響をそのまゝにうけるものです。

この時に私はまた思ひました。それは室の裝飾といふ事です。どうかすると子供らしくといふ考がおこりますが、美的な感をあたへるためには、やはり

繪ならば大家の筆をかけたいものです。何故なら彼等は理解するのでなしに、感ずるのですから。(もつともこれは子供に限らず私共でも、繪にしても音楽にしても理解しようとするよりもその美感にうたれればよいのですが) あんまり安つぱいものをならべたてると、どつしりしたものをつた一つでもよいから用ひた方がよいと思ひます。雄大の自然の中に生ひたつた人の心の大きいのにくらべて、都會生活をする子供の神經質なのは、やはり難然とした中にいつもおひかけおひまはされてゐるためではありますまいか。

私共としては、子供達が成人して、動搖のはげしい社會に、渾沌とした思想の渦中に入る時に、せめて一人一人が、何か一つうごかない信念を、力を握つてゐるようでありたいと希ひます。しかも、それは、幼ない頃に理屈なしに與へられた禮拜の動作、氣分による感化であるとするならば、宗教心の養成といふことにもつと／＼慎重に考へたいと思ひます。今は、物理學の泰斗でもう頭に霜をおく位の老年でありながらしかも、いまだに毎月の二十五日、天神様へお参りすることを一度もかゝしたことがないといふ方のことを嘗つてきく、しかもその人自身「自分でも何故かわからないがこれだけは休まれない」と仰せになるのを伺つて、私は感じてゐます。

(黒瀬艶子)

# 眼の衛生

——某講演會にて——

陸軍二等軍醫正 石 原 博 士

第一に、近視の事をお話致します。近視は世が開けるに従つて多く、野蠻國には少うございます。アメリカの黒人の學校では、百人中一人又は二人位しかありませんが、白人の學校では、百人中十人もあります。日本も昔は少なかつたが今は多いのであります。小學校は比較的少數でありまして、學校が進むに従ひ、段々近視が多くなります。中學には百人に二十人位、大學には百人に五十人位であります。

一體近眼と云ふのは、目が前後にのびるのであつてのびるわけはいろいろありますが、物を近くすると延びます。本でも裁縫でも目に近くすると目がのびます。又姿勢の悪いのが近眼のもとになります。獨逸の人が、猿を箱に入れて半年位倒にしてをきまして、猿は近眼になりました。頭を下げる事が悪いのです又目が疲れると近眼になります。薄暗い所で

物を見る事や、ギラ／＼光つた所で見る事や、電車中で揺れながら本を見る等の悪いのは、目が疲れるからですけれども是等の原因丈では近眼にはなりません、私でも、子供の時分には、随分こんな事をしましたが丈夫だつたから目がのびませんでした。つまり生來近眼になり易いものがあるのです。近眼になり易いものとは親が近眼なら子になります。親の近眼の人が百人中三十人位之になるとすれば近目でない親の子は百人中十五人位之になります。近眼はどうしたら豫防できるかと申しますと、第一は目を丈夫にする事です。體を強くすると目も強くなることは勿論ですが、しかしどうも親が近眼の子は、注意してもなりやすいようです。そこで豫防としては、一、本を読み字を書く時に、光が餘り暗くではないけません。又明るすぎてもいけません。殊に、夜、電燈の下で読む時は暗くなりたがるもので、どん

なに明るくしても太陽よりは無論暗いのですからなるべく明るい所で本をよみ裁縫をするようにしなければなりません。

二、窓の光は左からとつて右からはとらぬ事、右からとると本の上手などにかげが出来ます。

三、机、腰掛の高さが適當しないと姿勢が悪くなつていけません。

四、腰掛と机の離れ方が適當でないと姿勢が悪くなります。

五、本をよむ時の距離は一尺とし、且、本を机の水平面から四十五度位の角度になるようにたてるがよい。

六、子供のよむ畫本などにも注意しなければいけません。細い字のものや、字の読み難いもの、例へば彩色の上に字のあるもの又は色の強すぎるものは眼の爲に悪い本です。

七、歩きながらよむのはいけません。

八、服装上、頭に血を上せる様にして強くしめつけるのはいけません。

九、近眼になつたら眼鏡をかけるのが宜しい。今でも舊式の考の人はなか／＼眼鏡をかけるのをいや

がりますが、目の爲には醫者に度を計つて貰つてかけるのが宜しい。

次は色盲です。色盲は盲ではないが色を間違へるので、赤と緑の區別がつきません。色盲は澤山あつて、麹町小學校で調べました所、男の子百人中四人位、女の子はずつとへつて千人中一人位でした。この原因は分りません。色を赤と緑と間違へますが、平生は本人も先生も知りません。検査によらなければ分りません。唯他の學科はよく出来ても、圖畫又は點が悪いと云ふ事があります。色盲はなほりませんのです。それで、色を取り扱ふ仕事は避けた方がよい。例へば染物、呉服、色の印刷、殊に悪いのは汽車、電車、自働車の運轉手、舟の機關手で、色の信號を見る必要があるからいけません。海軍の將校にもなれません。

次は盲で、盲程氣の毒なものはありません。目が見えないと世の楽しみや活動の大部分がなくなります。有名な獨逸の學者ヘルムホルツは「目を失ふは命を失ふ次に悲惨なり」と云ひ、馬杉博士は徴兵検査で三千六百人の盲の原因を調べまして、子供の時の怪我による事が第一を占め、五百人程の怪我による盲

兒の中の三分の一が一歳から三歳の間でなりました。これは親の不注意によるのです。更にこの原因を調べますと左の通りになります。

一、子供が遊んでゐる時に自分で竹や木や針や爪で間違つてついたもの……………三十人  
二、ころんで怪我をした事によるもの……………二十一人  
三、はさみでついたもの……………十七人  
四、小刀でついたもの……………十四人  
五、蜂にさゝれたり栗のいが、花火、山へ行き竹、木がはねたもの。

六、人から怪我をさせられたもの。

遊んでゐて吹き矢、弓矢で怪我をする……………三十五人  
竹や針でつかれる……………二十四人  
石にあたる……………十一人  
空氣銃……………二人

ベースボール

上から木の枝を投げる

七、親の不注意によるもの

子守におぶさつて脊中のかんざしによ……………二十一人  
る、脊中で竹や木で遊びながら、  
やけどをする(鐵瓶、土瓶、鍋)……………十四人

ゐるりに落ち込む……………八人

縁側より落ちる……………四人

以上は凡て怪我によりますが、この外生れた時に目の中に親から毒が入る。これは二三日たつと目が腫れてうみが出來ます。百人中十人位はこれでこの時は早く醫師の手當をうけなければなりません。

次は「角膜軟化症」又「ひかん」と云ひ榮養が悪いためで、親の乳による子は少いが、米の粉を煮て飲ませる様なのによくある病で目が悪くなり、赤くなると思ふと二三日でつぶれて手おくれになります。牛乳でもやり方が悪いと時にこの憂があります。大抵は此の時下痢して聲がかるのですから直ぐに醫者の所に行くが宜しい。

これと同じ様で鳥目があります。大きくなつた子供にあるもので字の通り夜は見えなくなるので鶏、雀と同じです。これは、食物中の脂肪が足りなくて起る。人間の食物には澱粉、蛋白質、含炭素等が必要です、此外にビタミンが足りない鳥目になります。ビタミンは魚や肉の脂の中に入つて居る。卵、牛乳にも入つて居る鶏、魚の膽にも入つて居る。これが體に足りない鳥目になります。此時は早く

魚、肉の脂や牛乳、卵、魚の膽など食べさせるがよい。昔から鳥目には「やつめうなぎ」がよいと云ふが實際で、是等のものを食べさせるとその晩から見える様になります。

トラホームは最も怖いもので、ひどくなると目がつぶれます。百人中五人はこれでつぶれます。トラホームは日本に多く百人中十五人位です。日本全國では千萬人位の罹病者があります。トラホームは近眼と違ひ野蠻未開のところに多く、開ける程に減じます。日本は大正元年に百人中二十四五人はありましたが、それが十五人にへりました。トラホームといふ病氣は臉の裏に粒が出来る。それは慢性で初は分りません。検査によつて分り、それが甚だしくなると、腫れて、目やにが出て目が疲れて眠くなり、黒目に白い雲がかかる、すると見えなくなりまゝ。トラホームは目やにから直ぐに傳染しますが患者の手拭、錢湯の水、髮結床等によく注意しなくてはなりません。公共の場所では、共同の使用物は近頃はその筋でもやかましく注意しますので次第に用ひなくなつてゐます。鐵道の顔洗場のやうに洗面器の上から水が出て、たえず洗ひ流すやうになつ

てゐるのは共用の水の使用法としてよいと思ひます。

トラホームの患者は、その傳染性が今は一般におそれられるやうになつて、ことに外國へ行つても上陸の際拒絶されておひかへされます。

(未校閱……文責在記者)

#### ○編輯室より

○大正九年も、もう師走となりました。本誌もまたやがて一つ年をとります。明年は、別記の評議員會で議決の通りに滿二十年の祝賀があることとして一層皆様の御力を藉りることも多からうと存じます。何分にも、もつと本誌は各方面にプロパガンダして頂かれねばなりません。倉橋主幹の御留守中は、會長はじめ、藤井評議員が主幹代理としての御配慮は一通りではありません。御多忙の中を何くれとなく面倒を見て頂いて、お蔭で、次第に面目を新たにする方に進んで参ります。何と申しましても、唯今のところ、編輯の任にあるものが微力で、皆様の御希望にそはしない事は申わけもありませんが、これも購讀者の増加にともなつて、相當の力ある方も得られ、各方面の御助力によつて、内容の改善も充實も、出来るわけでございますから、この際、本誌の愛讀者の御勸誘を皆様にお願い致します。尙、本誌に對する御希望なり、御氣づきの點なりを御しらせ頂けば、本誌の改善のために、幸と存じます。御遠慮なく編輯者宛に御申し出下さい。又、誌上で購讀者の方々お互に御話もなされる様にしたいとも兼ねてから考へておりますことですから、何なりと御申越して下さい。更年とともに、編輯の方にも充分、時と力をそそぎ得る人を聘して、幾分、皆様の御希望に添ひ得ることを期して居ります。(九、一二、三、丁子)

# 秋の虫、山の向ふ

第二十七回京阪神聯合保育會提出

神戸市保育會

## ○秋の蟲

0	1	2	3	5	6	5	3	5	3	2	1	2	3	2	0
ヒ	ロ	イ		ノ	ハ	ラ	ノ	ツ	キ	ヨ	ノ	バ	ン	ニ	
な	は	な		か	る	か	や	き	き	や	う	の	か	げ	に

  

1		5		3		1		2		5		3		1	
リン		リン		リン		リン		リン		リン		リン		リン	
ひ	よ	つ	と	で	て	ひ	よ	ん	と	と	ぶ	そ	つ	と	で
て								て				し	ゆ	つ	と
												と	と	ぶ	

  

0	1	2	3	5	6	5	3	5	1	1	2	3	1.		0
ム	シ	ノ		オ	コ	エ	ハ	ヨ	ツ	ボ	ド	キ	レ	イ	
む	し	の		か	ら	だ	は	よ	つ	ほ	ど	か	る	い	

一、廣い野原の月夜のばんに

リンくくくくく

むしのお聲はよつほどきれい

二、をばなかるかや桔梗のかげに

ヒヨットでてビヨンととぶ

ソットでてシュツととぶ

蟲のからだはよつほどかるい



## 方 法

(蟲ノ鳴聲ハ色々カヘル、松蟲ナ  
ラバチンチロリント云フカ如シ)

### 第 一

圓形ヲツクリ中ニ一人立チテ小サキ蟲ニ擬シタル  
物ヲ持ツ

一、廣い野原の月夜のはんに(圓形ノ子供マハル)

リン~~~~~~~~~(マハリナガ

ラ手ヲ振ル)

むしのお聲はよつぽごきれい(手ヲ振ラズ其儘マ  
ハリテ止ル)

歌止ミ中央ノ子供曲ニツレテ圓ノ外側ヲマハ  
ル、此時圓ノ子供ハ手ヲ後ニ廻シテ待ツ中央  
ノ子供ハ持チタル蟲ヲ其圓ノ中ノ誰カニソツ  
ト渡シ中央ニ還ル

二、をはなかるかや桔梗のかげに(圓ノ子供誰レガ  
蟲ヲ匿シタルカノ知レザル様ニ手ヲ前ニテ合セ右  
向ケヲ爲シテ圓ノ儘前進ス)

ヒヨイトで、ピヨンこごぶソツトで、シュツトこ  
ぶ(歌詞ノ通りニ飛ブ)

蟲のからだは餘程きれい(ソノマ、前進シテ止リ  
正面ス)

中央ノ子供蟲ヲ持ツ人ヲアテルアタツタ時ニカ  
ハル

### 第 二

一、廣い野原の月夜のはんに(兩手ヲ前ヨリ靜カニ  
左右ニ充分ノバス其手ヲ左右ヨリ充分上ニアゲ月  
ノ形ヲナシテ其方ヲ見ル)

リン~~~~~~~~~(兩手ヲ腰ニ

足ヲ輕ク前後ニトブ)

蟲のお聲はよつぽごきれい(兩手ヲ兩耳ノワキニ  
持チ行キ上體ヲ少シク右ニ曲ゲテ聽ク形)

二、をはなかるかや桔梗のかげに(兩手ヲ左右ニ伸  
シ左右交互ニ足ヲ斜ニ後ニ引キ上體ヲ曲ゲルト同  
時ニ草ノナビク形ヲナス)

ヒヨイトで、ピヨンこごぶ(右足ヲ前ニ出シテ飛  
ブト同時ニ兩手ヲ左右ヨリ丸ク上ニアゲピヨンデ  
マハルト同時ニ手ヲ下ス)

ソツトで、シュツこぶ(左足ニテ前ト同ジ)

蟲のからだはよつぽごかるい(兩手ヲ左右ニ上ゲ  
スキツブラシナガラ圓ノ中央ニ向ヒテ前進シよつ  
ぽどニテ向キ直リモトノ位置ニカヘル)

( $\frac{2}{4}$ 調ハ)

$\frac{3}{\text{オ}} \frac{5}{\text{ヤ}} \frac{5}{\text{マ}} \frac{5}{\text{ニ}}$  |  $\frac{6}{\text{オ}} \frac{5}{\text{ニ}} 5$  |  $6 \frac{\dot{1}}{\text{イル}} \frac{7}{\text{ソー}} \frac{6}{\text{ナ}}$  | 5. 0 |  $\frac{6}{\text{ミン}} \frac{7}{\text{ン}} \frac{\dot{1}}{\text{ナ}} \frac{6}{\text{デ}}$  |

$\frac{5}{\text{タイ}} \frac{6}{\text{ヂ}} \frac{5}{\text{ニ}}$  |  $\frac{5}{\text{ユ}} \frac{5}{\text{カ}} \frac{3}{\text{ナ}} \frac{1}{\text{イ}}$  | 2. 0 |  $\frac{1}{\text{タイ}} \frac{2}{\text{ヂ}} \frac{3}{\text{ニ}}$  |  $\frac{6}{\text{ユ}} \frac{6}{\text{ク}} \frac{5}{\text{モ}} \frac{6}{\text{ノ}}$  |

$\frac{\dot{1}}{\text{ヨ}} \frac{\dot{1}}{\text{ツ}} \frac{\dot{1}}{\text{テ}} \frac{\dot{2}}{\text{コ}}$  |  $\frac{\dot{1}}{\text{イ}}$  0 ||

山  
の  
向  
ふ

(子供ヲ二分シ子供ト鬼トヲ  
定メ鬼ハカゲニカクレル)

(子供友達ヲサソフ)

子供ノ一人唱フ(歩ミツ)

お山に鬼があるそうな

みんなで退治にゆかないか

退治にゆくものよつて来い

数人ノ子供 ツレテ行ツテ頂戴トイヒナガラ出テ来

リ肩ヲクミ前ノ歌ヲ歌ヒナガラ歩ルク幾度モカ

クノ如クシテ全數集レバ皆ソロツタカラサア行

キマセウト山ノ向フニ行進ヲ初ム

( $\frac{2}{4}$  調へ)

5 3 3 | 5 3 3 3 | 5 5 3 1 | 2.0 | 3 3 5 6 | 5 3 1 2 | 3 3 2 5 | 1. 0 |  
 コ コ ノ オ ヤ マ ノ ホ ソ ミ チ ハ アー カ イ モ ミ チ ノ ト ン チ ル ジ ヤ

5 5 6 7 | 1 2 3 3 | 4 3 4 6 | 5.0 | 6 6 5 5 | 3 3 1 2 | 3 2 2 | 1. 0:  
 ト ン ト ン ト ン チ ル ト ホ リ ス ケ ツ ル ツ ル ハ ゲ ヤ マ ス ベ ッ テ  
 ド ン ド ン ド ロ ハ シ ワ タ ッ タ ラ オ ホ キ イ マ ツ ノ キ ス ギ ノ キ ガ

5 5 3 3 | 5 3 3 3 | 5 5 3 1 | 2.0 | 3 6 | 5 3 | 2 2 2 3 | 1. 0 |  
 イ ツ バ イ シ ゲ ッ テ マ ッ ク ラ ケ ザー ザー ゴー ゴー カ ゼ ガ フ タ

(子供ノ道行き)

歌こゝのお山の細道は

(二列行進ニナル)

あかい紅葉のこんねるじや

(トンチルノ表情)

トンくトンチルまほりぬけ

(同上)

ツルくはげ山すべつて

(スベル表情)

ドンくドロ橋渡つたら

(足音高ク表情)

大きな松の木杉の木が

一はいしげつてまつくらけ

ざあくごうく風がふく

(立チドマリ歌詞ノ通り表情)

子供皆コハイくト云ヒナガラ臥ス

( $\frac{2}{4}$ 調口變)

$\underline{5.} \underline{5.} \underline{5.} \underline{5.} \mid \overset{\cdot}{1.} \underline{0} \mid \underline{5.} \underline{5.} \underline{5.} \underline{5.} \mid \overset{\cdot}{1.} \underline{0} \mid \underline{\overset{\cdot}{2.}} \underline{\overset{\cdot}{5.}} \underline{5.} \underline{5.} \mid \underline{\overset{\cdot}{3.}} \underline{\overset{\cdot}{3.}} \overset{\cdot}{1} \mid$   
 コヲ ト ラ ウ                  コヲ ト ラ ウ                  ド ノ コヲ ト ラ ウ

$\underline{\overset{\cdot}{2.}} \underline{\overset{\cdot}{2.}} \underline{5.} \underline{5.} \mid \overset{\cdot}{1} \overset{\cdot}{1} \overset{\cdot}{1} \mid \underline{5.} \underline{5.} \underline{6} \underline{7} \mid \underline{\overset{\cdot}{1.}} \underline{\overset{\cdot}{1.}} \underline{\overset{\cdot}{1.}} \underline{\overset{\cdot}{1.}} \mid \underline{\overset{\cdot}{2.}} \underline{\overset{\cdot}{1.}} \underline{\overset{\cdot}{2.}} \underline{\overset{\cdot}{3.}} \mid \overset{\cdot}{1.} \underline{0} \mid$   
 ド ノ コヲ ト ラ ウ                  ド ノ コ モ                  コ ノ コ モ モ                  ミ ナ ト ラ ウ

(鬼出デ來ル)

鬼ノ歌 子をころ子ころ

ごの子をころふ

ごの子をころふ

ごの子もこの子も

みんなころふ

鬼共歌ヒ終リテ臥シタル子供ヲ捕ヘニ行ク鬼事ニ

ナル鬼ハ子供ヲ皆捕ヘ終リ

鬼ノ言葉 みんなつかまへたらさあ休み

ませう(鬼丸クナツテチル)

子供ソツト抜ケ出デ相談ヲシテ

静カニ鬼ノ後ニ廻リ「ソラツカマヘタ」ト大聲シテ

鬼ヲ捕ヘテ圓陣ヲツクル

(調へ)

<u>1</u>	<u>5</u> ・	<u>1</u>	<u>5</u> ・	<u>1</u>	<u>3</u>	<u>2</u>	<u>1</u>	<u>2</u>	<u>2</u>	<u>5</u>	<u>5</u>	5.	<u>0</u>
ヤ	ウ	ヤ	ウ	オ	ニ	オ	バ	イ	ケ	ド	ツ	テ	
<u>4</u>	<u>3</u>	<u>4</u>	<u>6</u>	<u>5</u>	<u>5</u>	<u>3</u>	<u>1</u>	<u>2</u>	<u>4</u>	<u>3</u>	<u>2</u>	1.	<u>0</u>
ア	カ	ル	イ	ト	コ	ロ	ヘ	デ	テ	ミ	レ	バ	
<u>2</u>	<u>5</u> ・	<u>2</u>	<u>5</u> ・	<u>3</u>	<u>2</u>	<u>1</u>	<u>3</u>	<u>5</u>	<u>5</u>	<u>5</u>	<u>5</u>	5.	<u>0</u>
オ	ヤ	オ	ヤ	ミ	ン	ナ	ハ	オ	ト	モ	ダ	チ	
<u>6</u>	<u>5</u>	<u>6</u>	<u>5</u>	<u>3</u>	<u>2</u>	<u>1</u>	<u>2</u>	<u>3</u>	<u>3</u>	<u>2</u>	<u>5</u>	1.	<u>0</u>
オ	ヤ	オ	ヤ	ミ	ン	ナ	ハ	オ	ト	モ	ダ	チ	

(鬼ノ正體表ハル)

子供ノ言葉 鬼スワレ

歌やうく 鬼をは生け捕つて

(子供手ヲウツ)

あかるい處へで、見れは

(鬼立チ互ニ顔ヲ見ル)

オヤく みんなハお友達

(鬼子供共ニ各後ニ一步トビスサリ驚キノ表情

ヲスル)

オヤく みんなハお友達

(兩方トモ互ニ手ヲ取リカハシ親シキ表情)

スキツブニテ終ル

以上

5	0	3	0	1	1	1	2	3	2	1	5.	0
ク	ル	ツ	ク	ク	ル	マ	カ	ザ	グ	ル	マ	
ク	ル	ツ	ク	ク	ル	マ	カ	ザ	グ	ル	マ	
6.	6	5	1	2.	2	1	3	5	3.	2	1.	0
・	・	・	ノ	ツ	ク	ツ	カ	ザ	グ	ル	マ	
ワ	タ	シ	ノ	ツ	ク	ツ	カ	ザ	グ	ル	マ	
ま	め	ひ	き	こ	め	つ	み	づ	ぐ	る	ま	
2		2	3	5	5	3	6	6	5	3	5	6
カ		ゼ	ハ	フ	キ	ダ	サ	ツ	サ	ツ	ラ	リ
み		ブ	は	よ	る	ひ	ド	ブ	リ	コ	ン	コ
	6	6	6	5	5	3	5	0	1	0	3	ー
ク	ル	マ	タ	ユ	マ	ズ	ク	ル	ク	ル	ク	ル
く	る	ま	た	ゆ	ま	ず	ク	ル	ク	ル	ク	ル
5.	1	2	3	5	3	1	5	3	1	2	1	0
ワ	タ	シ	モ	ヤ	ス	マ	ト	ツ	ト	コ	ト	ン
う	す			や	す	ま	ギ	イ	ト	ン		

## 水車 風車

第二十七回京阪神聯合保育會提出

### 大阪市保育會

(一) クルツ、クルツ車、風車

わたしのつくつた風車

風は吹き出す、サツサツサラリ

車たゆまず、クルツクルツクルツ

私もやすまず、トットコト

(二) クルツ、クルツ、車水車

豆ひき米つく水車

水はよるひるドブリコ、ドンブリコ

車たゆまずクルツクルツクルツ

臼も休まずギイトンギイトン

## 風 車

準備 二列縦隊ニテ對向シ二數番號ヲ附シ一二對向  
四人ヲ一組トス。

くるつくるつ車 體前胸部ニテ兩手ヲ敏捷ニ回轉  
ス。

風車 四人一組ニナリ二人ヅ、右手ヲ取ル。

私の作つた風車 四人一組手ヲ取リタルマ、一周。

風は吹き出す 拍子四回舊位ニカヘル。

サワサワ 兩手ヲ肩ト同ジ高サニ右ノ方ニ上ゲ右足

ニテ跳躍一ツ、

サラリ 兩手ヲ肩ト同ジ高サニ左ノ方ニ上ゲ左足ニ

テ跳躍一ツ。

車たゆまず 跳躍ニテ前進シ對者ト手ヲ取ル。

クルツクルツクルツ 對者ト一回轉シ。

私も休まず 對者ト手ヲ放シテ後歩シテ舊位ニカヘ

ル。

トツトコ 手ヲ腰ニ取り右へ二歩左足ヲ輕クハチ

ル。

トツトコ 手ヲ腰左へ三歩右足ヲ輕クハチル。

## 水 車

くるつくるつ車 兩手ヲ揃ヘテ體前ヲ二回右ヨリ左  
へ大キク廻轉セシム。

水車 ニテ相對者前進互ニ兩手ヲ取ル。

豆ひき 互ニ右足ヲ出スト同時ニ右手及體ヲ自然的

ニ前ニ出シ頭ヲ傾ケテ對者ノ顔ヲ見ル。

米搗く 手ヲトリタルマ、舊位ニ復ス。

水車 右足ニテ前項豆ひき米つくト同様ノ動作ス。

水は夜晝 四回拍手シツツ對者互ニ四歩後進。

ごぶりこ 右へ一步跳躍同時ニ右手ヲ弧線ニ體前ヨ

リ舉ゲ其手ヲ見ル。

ごんぶりこ 左足ニテ同様ノ動作ヲナス。

車たゆまず 對者前進互ニ右手ヲ抱キ組ム。

くるつくるつくるつ 回轉ス。

白も休まず 四歩後進

ぎーこんぎーこん 右へ一步跳躍左へ一步跳躍、

# お伽噺と幼稚園に用ゐる童話の關係及

## 其の改善に就て

私立福岡幼稚園 萩野 ヒサ子

皆様御承知の如く物は多く用ゐる方に依つて有利とも、有害ともなる事でありますが、有利にするには其選擇用法程度と云ふものを、是非考究して實驗に須つ外はないと思ひます。私は、最もお伽噺を賞玩する一人でありますが、

お伽噺に依つて修養も娛樂も出來、向上もさせらるゝもので、特に快活なる氣分は、此のお伽噺に依つて養はるゝものであります。此のお伽噺は、他の娛樂材料に比べますと、餘程進歩した樂で、有益な材料であります。

近頃急速力を以つてお伽噺俱樂部お伽會及お伽噺の參考書が澤山に出來て參りました事は私等の最も祝福する所であります。

茲に、私が、少し恥を申し上げますが、私には學識が乏しき爲め時折間違つた考へを起して、非常に幼児保育上に憂慮をする事があります。私は、初め

お伽噺と、寓言童話とは、同一のものごのみ思つて居ました處が、此の頃折々各方面に於て、お伽噺を伺つて見ますと、中には、只管幼兒の歡心を迎ふるのみを主眼として、其の字の意義の如く暫時聞く人のお伽をすると云ふに止まり、恰も夢を物語るが如き感を與へらるゝ事があります。而し是れはお伽噺の眞の目的でないこと云ふ事は後に覺る事が出來て最初の私の考へは誤解で有つた事を知りました。又參考書に於ても同じであります。

前述の如くお伽噺はお伽を主とするもの、童話は修身を主としお伽を加味するものと私の頭の中に區畫を致しました。

お伽噺は名の如くお伽を主とし、空想に富んだ不思議の事柄を以て之を構成し、専ら歡心を迎ふるを目的とする性質のものであるとすれば、私は學齡未滿の幼兒に之れを用ゐるに就ては、其選擇と用法と



程度とは、餘程慎重に注意を拂はねばならぬと思ひます。寧ろ、一考を要すべき事と思ひます。學齡前の幼兒は身體の各部最も發育しつゝある時であつて、草木の二葉の如く其の幹莖枝葉は其物の受くる溫度、濕氣、肥料との時期と、程度に依つて發育を左右するものであると同じく幼兒の發育も受くる所の外物に依つて左右せらるゝ事最も旺盛なるものであります。

幹莖即ち心(精神)此幼兒の精神敎養を左右するものは幼稚園に於ては、無論母に代はる保姆の誠意ある愛撫と其眞誠の愛より出づる訓育にあるものです。又種々お嘸の修養上に及ぼす力も大なるものであります。愛は即ち、初生草木に於ける溫度で有つて、訓育は濕氣の如く、お嘸は肥料と同じく相須つて、身體及精神を養育するに缺く可からざるものでもあります。故に、私は、幼兒に於けるお嘸と云ふものは、最も重大視して研究を怠らぬものであります。

#### お嘸の選擇と研究

- 一、幼兒の精神上に及ぼす影響。
- 二、幼兒の誤解を招かぬ注意。

#### 三、幼兒の頭腦を擾亂せざる注意。

幼兒の精神上に及ぼす影響。

- 一、多くの參考書より選擇するに際し第一に此お話は幼兒の精神上に、如何なる感を與へるか、考究の上取捨す。

幼兒の誤解を招かぬ注意。

- 二、有り得べき事と思ふて信ずるか、信ぜざるか。

幼兒の頭腦を擾亂せざる注意。

- 三、一、有り得可からざる魔法使又は、或る一種の神力に依る變化。

二、同一のお嘸は可成保姆全體が同様に嘸し振りを一定する事(一園保姆若くは一區一市)。

三、保姆が二回三回と繰返し同じ幼兒に同一のお嘸をなすとき最初のお嘸とは嘸振を變へぬ事。

四、小學校に用ゐるお嘸は、可成用ゐぬか、又は小學校と打合せをしたる上同一になすこと。

五、お話を改作するときの、大人には、魔法と云ふ事の解釋が出来るが、幼兒には事實を魔法との識別が出来る。將た魔法其のものさへ了解が出来ぬ(幼兒の問ひに、先生魔法とは何ですかと云ふ事が有ります)。了解の出来る者は、印

象が極めて薄弱である。魔法其ものゝ印象が薄弱であるから、目を経るに随つて、其魔法の産み出したる事實の話で有つたが、眞の事實で有つたやに迷ふ様になる。然らば、幼兒には魔法なるものゝ想像は出来ぬかと云ふに幼兒は、大人が考の不及記憶が有るもので、幼兒其者の感覺が腦力發育の程度に依つて、一樣ならず極單調の頭で以つて妙に其の幼兒の腦力程度に了解を與へて、記憶して居るものである故に頭腦を擾亂せしむ。

2、甲の先生が、桃太郎の話をするとき、お婆さんが桃を戸棚に入れて居たら夜になつて、バチーンと、音がして其桃が一人で破れて中から可愛らしい赤ちゃんが出て來たと話す。

乙の先生は、お爺さんとお婆さんと、桃を食べやうと思つて庖丁で割つたら中から美くしいばつちやんが出て來たと云ふが如く、甲乙の二者の話が異つたら幼兒は何れを信じてよろしきかに迷ふ、即ち頭腦を擾亂するの初まりである、噺のみならず先生即ち、保姆を信ずる事に迷ふものである。

3、幼兒が此間聞いた太郎さんの飛行機に乗つたお話をして頂戴と多數要求するとき、保姆が最初の時には明笛を吹いてマルと云ふ犬を連れて野原に行たと話して置きながら保姆がつい一時忘れて居たから横笛と云ひタマと云ふが如き類である。大人ならば、マルであらうとタマで有らうと犬は犬だから先生が忘れて居たよと思ふけれども幼兒は、其腦力がないから顔を見合はせて、太郎さんのお話かしら先生、それも太郎さんのお話ですか、太郎さんところに犬が二疋ゐるねえ、笛も二ツ持つて居ますかと云ふ如く話の事實の筋は、同じでも少しの差異があれば迷ふものである。即ち迷ひの初まりである。此處が幼兒の腦力の不備なる處であります。

4、小學校に用ゐるお噺を幼稚園に用ゐるならば、是非小學校と打合せする必要があります。幼兒の頭腦には、先に入つたものが既に信せられて居る故に他日小學校で簡單に荒打なお噺振があれば先に、聞いたのが善き様に感じて却て善き教訓的に聞かされたお噺を面白くないとか又は學校の先生は、下手とかと妙に感ずるもの

である。茲に學校の先生に對し、最初の信賴を傷くる様になる此例は二三持つて居ます。猶ほ唱歌遊戲に於ても同じである。實例は毎々聞いた事があります。經驗の上から申します。

5、お話を改作するに當り一夜作りに改作して翌日甘く噺して置いて熟々考へて見るとまだぐより以上に面白く幼兒に快感を與へられて、少しの口上を附加する計りで、最も訓育的になる。そこで幼兒の再び要求する日を待ちて今度こそはより以上に甘くして悦ばせんと後の改作の方を話すことが有る。私の經驗に依れば、是れも多くは不可で多くの場合幼兒の迷を來すことがあります。私は思ひます。先生と云ふものは、一度言ふた事が不足なれば不足の儘の一の型の様式見た様にして置いて、其の幼兒の信を深からしめ、其幼兒の終了後新幼兒と代つた時新たなる幼兒に、新なる話をするに際し、第二の改作を話すがよろしいと、幼兒を悦ばせることは最もよろしい事であるが苟くも教への根本を亂す恐れのあることは控へねばならぬ又愛情の亂用とならんことに注意することが肝要である。

#### 一ヶ年お噺の數

幼稚園に適切なるお噺即ち面白くて教訓になる平易なお話は之れを選択するに實に困難である様なれども多く談す人の談し様に依つて感興を與へると否とは、有るものである。然し一年を通じて話題六十以上有らねばならぬ。又一年の保育日數は、二百四十餘日である。一週平均三題として百餘題を要する譯なれども、偶發事項に依る躑上上の訓育其の他の訓育の日を除けば七十餘題で充分と思ひます。重き任務を負ふて立つ保母は是れを選択するは正當の職務上の任務であると思ひます。

#### 保母の言行は幼兒の範なり

其の子を知らうと欲せば、其の親を見よと云ふ如く子供を見て凡そ其の親の教養の如何を知る事が出来る如くに、園児は保母の寫眞である。笑顔を以つて幼兒を迎ふれば幼兒笑ひ、怒顔を以つて幼兒に對へば、幼兒の笑顔を見ざるが如く亦精神に及ぼす感化も甚だしきものである。幼兒に及ぼしたる感化は幼兒將來の基礎となる故に、保母は片時も三ツ子の根性百迄又先入主となると云ふことは忘れてはならぬ、一舉手一投足、他日の範たるものである。幼兒

の忘れ易きを待みて、苟くも不合理、不親切なる言動を示して置く時は、日を経て其の忘れて欲しいと思ひたるものが却つて能く記憶されて居るもので有つて保姆自身に反省して自ら恥づることのあるものである人様の大切なお子様を安心して幼稚園にお預けになつて居るものなれば、保姆の責任は其親と同じく重大のものである第二國民の身體と精神の基礎を左右する教養を任せられて居るものなれば、幼兒

の將來を深く考慮して特にお諭の選擇に考究せねばならぬと思ひます。  
要するに私は、幼稚園保姆が研究を重ねて幼兒に適切なる事實談及寓言童話を選び身振手振をして幼兒の快感を誘ひ喜悅裏に忠孝其の他勸善の修養を逸せぬ様不知不識裏に感化薰陶をなさん事を望む。  
換言すれば童話をお伽式に噺して修身的目的を逸せぬこと最も肝要と思ひます。(終)

## ○虐げられし小國民

戦後獨逸が食料と物資に缺乏して國民の生活が脅かされて居る事は屢々傳へられた所だが殊に此食料と物資の缺乏は獨逸の小兒を苦しめ爲に識者は獨逸民族將來の爲寄々協議して居るされど今尙名案が出ない内に冬に入らうとし寒さと餓とは遠慮なく先づ小兒を苦しめるので兎も角獨逸小兒救濟會と云ふものを組織し其發會式を兼ねて獨逸全國に亘りて十一月二十八日小兒救濟の爲に示威運動を行つた同日伯林大學教育學教授のラングス・フー博士は小兒救濟が殆ど絶望であると悲觀し

曾つてエレン・ケイ女史は二十世紀は小兒の時代なりと言つたが獨逸の小兒に取つては二十世紀は小兒虐殺時代だ。  
と聲淚共に下る演説を試みた普魯西議會は目下開會中だが矢張小兒救濟が問題となつて居り二十七日普魯西文相ステゲバルト氏は小兒の爲に激昂せる句調を交へて左の演説をした。

大伯林市の某區立小學校は六百五十人の生徒を教へて居るが其内百六十一人は跳足で百四十七人は上著なして通學し又三百五人は褌衣なしで通學して居る而して是等兒童中家庭で牛乳を飲むことが出来ない小兒が三百四十一人ある斯くの如き有様であるから六百五十人の内六十人は過去三箇月間の榮養不良と寒さの爲に病氣となつて死んだ。

と又伯林市立慈善病院長ピコットナー博士は同じく小兒の窮境を述べて次のやうに言つた。

伯林市内に癡林のシャツが缺乏して居る爲と住宅缺乏の爲に小兒は年々弱くなり本病院に入院するものは大抵肺結核である。  
とされど食料と物資の缺乏せる目下の獨逸としては坐して其死を見て居るより外に仕方がない有様である。(東京日々新聞伯林特電)

# 翫物教育協會案翫物使用法と效果

東洋幼稚園牛込分園長

久 門 嘉 祐

翫物の教育を實行せんとするには從來のでは満足

が出来ない、此際是非共完全な翫物を得たいといふ  
ことから翫物教育協會の設立を見たのである。即ち  
本會の精神として子供の翫物本能を遺憾なく發揮せ  
しむる種の翫物を世間に供給したい希望で著々研究  
しつつあるので既に製品となつた翫物も五六十種に  
及んで居たのであるが、これを以て満足して居るも  
のではない。幸に普く識者の批評高見を得充分の保  
護督勵の下に他日を期する次第である、乞ふ諒とせ  
られんことを。

次に本會既製翫物の實際使用法及其效果の見易い  
點を記述せんに。

## ○總體的方法

### (一) 自由放任法

室内外の適當なる場合に陳列して置いて保姆先  
生の監督なしに純然たる自由でいぢくらせるので

ある。

### (二) 課業法

子供の自由ばかりに任せて置くのは動もすれば  
危険である。即ち時々發動する長所或は短所に  
偏して自然の發育を妨げるやうになるのである。  
課業法は其調節である。又自由の中に義務を養ひ  
規律を養ふ上に於ても亦心身の休息としても課業  
法は是非共必要である。

但し茲にいふ課業法とは活動の一日中にて一回  
だけ十分二十分三十分(程度により)位のみつち  
りやる課業である。小學校のやうに一時間／＼教  
授細目によりてやるやうな課業でないこと勿論で  
ある。

### (三) 翫物の取扱法(先生側)

自由法、課業法といつても一人一人勝手にやる  
のと、皆一緒にやるといふ相違と自由法に於ては  
先生は一切に手を出さない。打ちあかしにして置

くのと課業法では備付の翫物各種を先課に日に割り當て課するのである従つて規律を重んじ義務に服従せしめ厭の應の言はせない嫌ひなものである。我慢させる。そして先生が巡視して質問には答へ困つて居る處は教へ、或は手傳つてあげるといふ風に臨機に整理するのである。課業法だからといつて頭から物を教へるのではないのである。

#### (4) 效果

效果といふと、いつでも其直接效果のみに没頭するのが常であるが、之は教育上の遺憾事であり、其子供に依つて或は場合に依つては寧ろ副産的效果の方が大であるといふことが決して尠くないのである。而してそれが又偶然でないといふ事情もある。即ち直接效果は、どうも先生が強い傾向があるそれに反し副産的效果は全く子供が自然にそれに、ぶつかつて自分で味ふのであるからである。

副産的效果の一例を掲ぐれば、靜かに細かく遊ぶ翫物に依つて、これまで、そわ／＼一向落付かない子供が不圖發心して萬事に落付いて來るとか、或は常に引つ込み思案のものが或る翫物でむづか

しいと思ひつめて居ることを遂に仕遂げたが爲めに、非常に氣が開けて、今度は何にでも手を出すといふ風に進發的になつて頭が非常に良くなるといふことがあるのである。

凡ての場合にこの副産的效果といふことの大きなを感じるのである。

### ○翫物教育協會の翫物の

#### 使用法及效果

##### 第一翫物 鉛筆箱

五角形になつてゐて二つに開くやうになつてある上品な綺麗な箱であるそして至極丈夫である。

まあ毀れるといふことはないといつてもよい。

(效果) 幼兒は其箱がうれしい、繪をかく前に既にうれいといふ心の非常な餘裕がありつゝいて繪を満足してかくのである。如何に活動性に乏しい趣味の薄い繪の嫌ひなものでも鉛筆箱のうれしい心に釣り込まれて愉快に繪をかくのである。

##### 第二翫物 低梁木……室内外運動具

極平和な上品なそして面白く遊べる運動具である。長四間の直線式のもあり又長さ一間宛に切

つた排列式のものもある。排列式のは並行にでも四角形にでも隨意に並べることが出来るとして幼児で自由に出来る。室内へでも室外へでも運べる。毀れない、そして幼児に危険の絶對にない安全な運動具である。

多數の子供が同時にやつて而も一人一人自由勝手にでも、又課業的にも出来る。一體課業的には自然相當の規律を守らなければならぬ又平素出来ない厭だとするところでも一奮發せねばならぬことになる。

### 第三齣物 絲卷

可愛い絲卷に色絲を自由に卷くのであるが女の子は勿論非常に喜ぶのであるが、男の子も喜んで卷く。始めには普通に卷いてゐるが、色々工夫して段々には圖呆卷をするやうになり。此遊びで頗る嬉しいのは、最初は誰れでも逆卷をするのである。それに本卷を教へる、それを頭のよい子供は覚え易い。それを覚えて本卷が出来るやうになる。それは大喜である。それから頭の鈍い子供、活動の少い子供が本卷が出来るやうになると、急に頭が非常に伸びて活動が出て来る。随つて他の

すべての活動を呼び出して來るといふことになるのは、實に先生として嬉しい。子供は段々に早く卷い、綺麗に卷くやうになり、絲がもつた場合などは實によい修養になる。

### 第四齣物 板ならべ

方形三角形半圓形長方形等の可愛い板を平面的に諸種の形に並べるのである。

實に面白がつて自由に並べて遊ぶ。吾々大人の想像もつかぬやうなことを並べる。自由工夫は大人より確かに甘い。偉大な創作力を有して居る又これに大人が考へた並べ方の手本を見せると、子供は實に偉いものであると思ふ。一目見るとすぐ其通り並べる。そして、すぐ自分の智慧の中へ取り込んで應用をする。子供の頭の活躍は大したものである。

### 第五齣物 豆插み

綺麗な箱に豌豆大豆小豆蠶豆等六種の豆が入れてある。それを箸で可愛い皿に挟み別けるのである。よくはさめるやうになるとなか／＼楽しみである。右でよく出来れば左手でするので、左手ではなか／＼はさまれないのであるが、子供といふも

のはなが／＼辛抱強いものであるといふことについて大人が其辛抱といふ點について嘲けるやうな氣がして非常に刺戟されるのである。子供は其辛抱といふ將來にとつて大切な修養を不知不識實際してゐるのである。それに分類をするといふ經驗も得られ、大豆は豆腐、黒大豆は煮豆、小豆はあんこにといふ效能も自然に知ることが出来る。どうしても日本の子供として、五つ六つの子供で豆の充分にはさめない子供は頭がよくないか、手先が不器用なのか、人格的に統一のされてない子供が落付かない子供か辛抱の足りない子供であると思ふ。

## 第六詭物 色板

六色に大別され各色で濃淡に依つて五段に分れて居る。それを赤の行青の行といふやうに並べるのである。

初めは色の區別なくめちや／＼に並べる、段々に赤青黄といふやうに區別する尙進んでは各色で濃いことから、段々に淡いのを並べ、或は淡いのを第一にして第二第三四五と順次濃くして行く。或は自分が隨意順序を代へて二三四一五、或は四三一

五二、といふ風に自由に順序を代へて並べるやうになる。色の濃淡の鑑賞が明確になり圖案的の頭が出来る。

## 第七詭物 片假名字合せ

繪カードの字の通り駒で合せるのである。幼い子供には只繪を並べて名をいはせるカルタのやうに取らせる。段々繪がわかるやうになると、一、二枚づゝ字合をする、遂には字の方を見ないで繪と駒の字を合はせるといふやうに進むのである。

これに依つて自然に庶物の名を知る其内容を知る教へないで字を覺へる。

身體の發達も智慧も字を教へるのに充分な程度にあり又充分覺えたい希望の湧いて居る子供には家庭でも字を教へたい希望で色々苦心されるのであるが、どうもおしまひには大人が無理に強いることになつて、不成績に終り勝である。遂に幼いのに字を教へるのは害がある打やつて置けといふ結論になるのであるが、この字合によれば子供が自分の希望の通り自然に覺えて満足をする、いつ覺えたとなしに覺えたといふ大切な教へ方になるのである。



全體發達の充分な子供は字を覺えたいといふ希望が起る。自分の活動範圍を擴張せんとする自然の趨勢である。教育が若し此希望に添はないといふのは丁度原の新芽を重い石で上から押へて居るやうなもので、曲りくねつて何處かすきから伸び出す。幼兒の心も其通り押へられた芽は何處かすきをねらつて曲がりくねつて必ず出るそれが俗に言ふじれといふものであり。或は我儘になつたり意氣地なしになつたり、うそつきになつたり意地悪になつたり、いたづらになつたり亂暴になつたりする(字だけのことでないが)。試に右のやうな状態に陥つてゐる子供に、字を教へて見ると適面におとなしくなり、趣味が高尙になり大に得意になるといふ實驗は多々あるのである。

## 第八斷物 竹馬

要するに普通の竹馬であるが、棒が竹では折るといふことや、とげがたつといふ危険があり保存期も短かく、そして縄が切れたり、緩んだり解けたり足踏が下つたりしてなか／＼手入が面倒でそれに婦人の手には一寸困難である。

右の如き次第であるから、棒を木の丸棒にし磴は一段二段の上下を子供で出来極乗り心地がよいやうに出来て居る。

竹馬は體育運動としても亦精神修養として結構

なものであり、身體は自然に輕快に遊ぶやうになり、臆病心は驅逐せられる、それに幼兒が竹馬に乘らうとする其熱心には實に驚入るのである。乗り初めのときなどは落ては又乗り、轉んでは又とつつき、介助する先生がもうくたびれてしまふ位で、それで幼兒は平氣である。さうして遂によたよた乗り切る、さあ乗れるやうになつたときの得意さ加減は實にないのである。初は草履竹馬それから一段(高五寸)二段三段四段とすん／＼進むのである。

私の幼稚園では原段竹馬から一段二三四五六七八段まで備へてある。暑寒通じに盛んに流行する遊であるが、卒業間際になると優秀なものには八段(高さ四尺位)のに平氣で乗るものが必ず五六人は出来る。其内で女兒が二三人はあるのである。

## 第九斷物 柱登り

一尺置に足場をとりつけてある柱が三角形に樹てられ、其中間には足場なしの丸柱が樹てある。自由に登つたり下りたりするのである。子供にはとつつき易い、そして危険のない男の子にも女の兒にも大變善ばれる室外運動具である。

## 第十斷物 狀袋貼り

紙を截つ狀袋の定木と鉄と色紙と貼繪とがは入てゐる。

色紙に定木で線をつけ切つて狀袋を貼るのであり、可愛い綺麗な狀袋が出来るのである。

## ○日本幼稚園協會評議員會

去る十一月二十六日午後四時から日本幼稚園協會の評議員會が開かれました。新たに本會評議員を御承諾下さつた、文部省事務官乗杉嘉壽氏、内務省書記官田子一民氏帝國教育會の野口援太郎氏も出席會の發展について種々議する所がありました。湯原會長の挨拶について、各評議員のいろ／＼の意見の交換に花がさきました。雜誌「幼兒教育」の内容の改善につき、その宣傳につき、又會の諸事業について、文部省の方面も内務省の方面も種々御助力下さるといふお話もありました。また本會の事業として託兒所保婦の養成の機關を設立することについて、具體案をたて、當局の社會事業と協力して實行にうつりたいといふ議も決しました。また、今年は本誌「幼兒教育」が「婦人の子供」の名で世に生れてから丁度二十年目になりますので、明年一月を期して滿二十年の記念祝賀をかねて、一大講演會をひらき、名士の講演とともに、この期を利用して大々的に幼兒の養護、その教育の宣傳をし、特に「子供日」といふべき日を定めて、充分、世の注意を促したいといふお話もありました。

特に、目下の急務は、「幼兒教育」購讀者を増し、幼兒保育の聲を大にし、本會の事業の發展を期したいといふことで、明年一月を期して、倍加運動を實行し、各會員が責任をもつて、各々一人づゝの購讀者をつのるといふことを各方面におねがひしたいといふことでした。本邦にこの種の雜誌は、専門的といふ上から云へば、本誌があるのみで、これを、ひろく各家庭にも入れたく過去二十年の間堅實な基礎に充分の經驗をつんで來た本誌はこゝに更年々ともに、いよく時代の要求する使命に向つて、その實をあげたいといふ事が、評議員の方々の一致した考でした。尙、本會評議員として、新たに

御承諾を得た諸氏は、上記三氏の他に、醫學博士弘田長氏、女教師教授菅原教造氏であります。

尙、當日出席の方々は湯原會長、田子一民氏、乗杉嘉壽氏、野口援太郎氏、日田權一氏、藤井利警氏他に土川幹事及他の幹事數名でした。

## ○第二回全國教育雜誌記者大會

日 時 大正十年一月十五日より三日間

會 場 明治會館(神田區仲猿樂町)

中心問題 小學校教員俸給國庫支辨促進の方法

○一月十五日(土曜)會場 明治會館  
午前九時開會 午後三時半閉會

一、諸 報 告

二、議 事 小學校教員俸給國庫支辨促進の方法

三、中 食 但本大會に於て用意す

四、議 事 前議事の續行

○一月十六日(日曜)會場 同 前  
午前九時開會 午後三時半閉會

一、議 事 議案及協議題に就て

二、中 食 但本大會に於て用意す

三、十分間演說 會員有志

○一月十七日(月曜)會場 同 前  
午前九時開會 正午閉會

一、議 事 前日の議事續行

二、閉 會

◎懇親會

十六日午後五時開會 上野精養軒に於て(會費は大會費中より支出)  
當日文部大臣を招待す

◎小學校教員俸給  
國庫支辨問題大演說會

十七日午後五時半より開會 青年會館(神田美土代町)に於て  
出演者 主として大會會員中の有志

◎拜觀及參觀

十八日は會期外なれども特に宮城及新宿御苑拜觀、印刷局參觀の豫  
定なり

◎會費

一、各雜誌均一金拾圓支出の事

但一雜誌二名以上出席の場合是一名を増す毎に金五圓を加ふ  
地方は開會第一日持參の事、東京は十一月末日迄に納付の事  
〔附記〕 大會出席會員に對する汽車汽船賃金割引に關しては目  
下交渉中に付決定の上更めて報告す

○第二十七回京阪神聯合保育會

同會は去る十一月十四日京都市公會堂に於て開催。  
非常の盛會なりし由。その次第は左の如くでした。

一、一同著席

敬禮

一、唱歌

君が代

一、京都市保育會會長開會之辭

一、報告

一、協議題

(I) 從來其筋に建議したる公立幼稚園の園長保  
姆の資格及待遇に付其實施を促すことを重ね  
て建議するの件

説明 市町村立小學校教員の受くる年功加俸、休職給、疾病  
療治料、免許狀共通等の特典を幼稚園長、保姆にも與  
へる様規則の改正を希望するものなり。

京都市保育會提出

一、研究題

(I) 幼兒の環境を如何に整理すべきか

大阪市保育會提出

一、研究發表

(I) 幼兒の體溫脈搏呼吸について

神戸市保育會提出

一、講演

奈良女子高等師範學校長

演題 戦後の幼稚園教育 榎山 榮次君

休憩 (晝食)

一、遊戲交換

(I) 秋の蟲 (2) 山に向ふ

以上

神戸市保育會提出

(I) 風車と水車 (2) 時のおぢさん (4) 羽衣

(5) なかのくく小坊さん

以上 大阪市保育會提出

(1) 電話遊び (2) 行きたい

以上 京都市保育會提出

一、研究發表

(1) 古來京都附近に唄はれたる童謡の蒐集と其

研究

(2) 作曲に付て

(3) 保育終了兒の小學校に於ける學業成績に付

て

以上

京都市保育會提出

一、研究題

(1) 幼稚園時代の教育に於て主力を注ぐべき點

如何

説明

フレイベル先生は其崇高なる理想の實現に御努めなさいました。モンテツツリ女史は感覺教育を幼児教育の基礎と致されたと思ひます。是等の諸先生と時代も進み土地も違つて居る現代の我邦の幼稚園の教育は又其れに應じて新しい教育の目的を考へその點に主力を注ぐべきではありますまいか

現在の社會の狀態最近に諸學者の多くの研究によつて明かにせられた幼児心身の發育狀況及皆さんの實際上の御經驗などを基礎として御立論あらんことを切望致します。

以上

神戸市保育會提出

一、協議題

(1) 小學校に併置しある幼稚園に於て保姆と訓

導と兼務せしむる可否

説明

現代の思想に於て幼児保育事業と小學校幼學年の教育との連絡を最も緊切の事なりとするは何人も恐らく異論なき所而して此連絡の圓滑を計らんが爲めには保姆と小學校幼學年擔任教員とを兼務せしむるを以て最も適當なりとするは現に米國等の例に見るも亦明かりなる我邦目下の狀況に於て幼稚園と小學校との並置せらるるもの尠ならず此場合に於て保姆と訓導とを兼務せしむるの途を開くは幼児保育の効果を以て一層有力ならしむる所以にあらずるか若果して適當なりとすれば進んで之れが實行を促進せん事を希望す。

以上

京都市保育會提出

一、研究題

(1) 最も適當と認めらるゝ保育者の服裝如何

以上

大阪市保育會提出

一、京都市保育會長閉會の辭

○第十一回福島縣保育會

同會は、去る十月開催されました。當日の議題等

は左の如くでした。

研究題

會津保育園提出

一、新入園兒ニ關スル取扱方法如何(研究終了)

説明 在來園兒ノ中ニ四歳、五歳、六歳ノ幼兒アリ而シテ新

入園兒ノ中ニモ年長者年少者アリ是等ノ新舊幼兒ヲ如何ニ取扱ハル、ヤ各園ノ御經驗承リタシ。

## 二、内辨慶ノ子供ノ指導方法如何(研究終了)

説明 家庭内ニ於テハ非常ニ強カリ然モ大勢ノ中ニ出テハ大ニ縮スル幼兒アリ之ガ矯正方法ニ付キ御實驗談承リタシ。以上

## 研究題

### 會津保育研究會提出

## 一、保育方法中最モ興味ヲ喚起スルモノヲ季節ニ分チテ調査スルコト(來年度保育會マデノ研究宿題)

説明 幼兒保育ニツキテノ研究ハ頗ル進歩セシヲ以テ保育課程及指導方法モ自ラ異ルベキニヨリ各園ニ於ケル實況ヲ承リテ改善ノ資ニナサントスルニアリ。

## 二、幼稚園ヲシテ一層家庭のニナラシムル方法如何(研究終了)

説明 幼稚園ハ家庭ト學校トノ中間任務ヲ掌ルモノニシテ家庭ノ如ク又學校ノ如キ場所ナルベキニ目下ノ處概シテ學校のニ偏スル傾向アリテ自然幼兒ヲシテ窮屈味ヲ感セシムルヤノ憾ミアリ之ヲ一層家庭のナラシムルノ方法竝ニ各園ノ御所見承リ度シ。

## 協議題

(同上)

## 一、縣保育大會ヲシテ一層有效ニ且ツ經費ヲ節約スルタメニ當番幼稚園ニ於テ自炊の宿泊ノ便宜ヲ謀リ而シテ遊戲講習期間等ヲ成ベク延長スルノ方法ニシテハ如何(委員ノ附記ノ上可決)

説明 折角縣下ノ幼兒保育關係者ノ集合モ一兩日ノ會合ニテ

ハ甚ダ物足ラヌ感アリ然レドモ一方經費ノ許サバル點モアレバ自炊の宿泊ノ便宜ヲ講ジテハ如何ト云ニアリ。

## 研究題

### 若松私立幼稚園提出

## 一、團體の行動ヲナサバル幼兒ノ取扱法(協議終了)

以上

## 協議題

### 喜多方幼稚園提出

## 一、幼兒ノ思想觀念ヲ養成スルノ一助トシテ凡ソ左ノ範圍位ノモノヲ了解セシメ置ク必要ナキヤ(協議終了)

父母ノ名、自己ノ氏名、自己ノ年齢、町名、辨當ト云フ器ノ材料(例之アルミ、瀬戸引又ハ塗物ノ如シ)箸ノ材料(例之普通杉、竹、稀レニハ松、桑ノ如シ)數ノ概念(凡ソ二十位ヲ程度トシ)氏神ノ呼稱、寺ノ呼稱、封筒、はがき、鶏(例之白黒其ノ他色々アリテ足ハ何本アルカト云フガ如シ)猫(同上)

説明 是等ノ二部ハ既ニ實習セラレツ、アランモ從來一定シタルモノナク且ツ小學校ニ於テ入學始メ是等ノ中他ニ於テ初歩觀念ヲ聞キ取ルノ資料トモナラン故成ルベク或ル程度マデ各園一定シ置クノ必要アラント信ズ。

## 談話題

年長兒ノ製作ヲ間違テ模倣セル年少兒ノ取扱方法如何(今回ハ保留)

說明

年長兒ノ製作スル繪ハ複雜ナル摺紙及組紙等ヲ年少兒  
之ヲ間違ヒテ模倣製作シ居ルヲ時々見ル之ガ間違ヲ否  
定シ正確ニ指導スルヤ又組全體ノ製作スルマテ放任ス  
ルヲ可トスルヤ各園ノ御意見承リタシ。

二、各園ノ園外保育ノ狀況承リタシ(今回ハ保育)

研究題

郡山幼稚園提出

一、幼兒身體檢查ノ結果ヲ比較的有效ナラシムル

良法如何(來年度保育會マテ研究ノコト可決)

說明

各幼稚園デ毎年春季ニ小學校同様幼兒ノ身體檢查シテ  
居ル事デアルガ、其結果ニツイテハ如何ニ利用シテ、  
コレヲ有效ナラシメテ居ルカ又如何ニスルコトガ最モ  
效果アルモノデアルカ、適切ナル研究ヲ遂ゲタイノデ  
アル。

談話題

一、新入園兒中保育ニ最モ困難ヲ感ズル幼兒ノ種

類及其取扱法如何(今回保育)

說明

家庭ニ於テソレハ、嫌ケラレテ居タ幼兒ガ、幼稚園ト  
云フ團體的生活ニ入ツテ來テ、幼稚園ノ保育ニ困難ヲ  
感ゼシメル幼兒ハ、ドンナ種類ノモノデアルカ之ヲ知  
ツテ家庭ニ知ラシメ今後訓育ノ參考ニ資シ又一方保育  
者ハ是等ノ幼兒ヲ如何ニ取扱ツテ其ノ教育ヲ完成ナラ  
シムベキデアルカニ資シタイト思ヒマス。

二、幼兒ノ對話指導ノ良否如何(今回保育)

說明

幼兒思想發表上ノ訓練ニ就テハ隨分骨ノ折レル事ト思  
ヒマス。ソレデ幼兒相互ノ對話、上長ニ對スル對話等  
ニツキ如何ニ指導スベキモノデアルカラ承リタイノデ

ス。

實驗談

松山政治提出

幼兒ノ啼泣ニ關スル研究(約三十分位延期)

研究題

市立福島幼稚園提出

一、幼兒ノ發音練習ニツキテノ注意如何(研究終了)

談話題

幼稚園恩物ニツキテノ注意如何(來年マテ保育)

一、幼兒ノ身體發達ニ有效ナル手段(同前)

問題

二本松幼稚園提出

一、分園保育ノ良否如何(中部保育研究會提出)

(來年マテ研究ノコト)

一、幼稚園ニ於ケル生活狀態ソノ他ニ於ケル生活

狀態ト甚シク異レルモノ、矯正策(今回保育)

二、各園ノ運動會ノ模様承リタシ(今回保育)

三、意志ノ薄弱ナル幼兒ヲ強固ナラシムル保育法

如何(今回保育)

研究題

須賀川幼稚園提出

一、家庭ト聯絡ナク保育シ得ル場合及其效果如何

(延期)

說明

全幼稚園ニ委託セラレ又ハ幼稚園ガ專斷的ニ爲ス場合  
等有之要スルニ家庭ト幼稚園トノ交渉範圍ヲ明確ナラ  
シメン爲ナリ。

謹啓高堂愈々御隆昌之段奉欣賀候陳者弊店儀多年深甚なる御引立を蒙り御蔭を以て逐年業務の盛況を見るに至り深く感銘仕る處に御座候就ては今回増資之必要を生じ經營組織を變更致す事に相成新に株式會社フレーベル館を設立し一切の業務を引繼き申候間御承引奉願上候先は御挨拶旁得貴意申候 敬 白

大正九年十二月

東京市麴町區三番町六番地

フレーベル館 高 市 次 郎

拜啓各位益々御多祥之段慶賀の至に存じ候陳者弊店儀今般フレーベル館の事業を繼承致候に付ては爾今一層業務の發展を計り度存候間何卒倍舊の御同情を以て御高庇を蒙り度奉懇願候右御披露旁如斯御座候 謹言

大正九年十二月

東京市神田區今川小路二丁目

株式會社 フレーベル館

逐て新築落成迄は元フレーベル館に於て營業可仕候間御了承下され度候

澤柳文學博士赤司局長  
田子社會課長諸氏惟獎

文部省普通學務局  
マスター・オブ・アーツ  
水野常吉著

□菊判布裝函入最上製□  
□ポイント四百五十頁□

□定價金四圓□  
□送料拾八錢□

(版再)

# 輓米國農村教育と其施設

□内容説□  
□明贈呈□

實際の要求に従つて畫策し、幾多の苦き經驗と變遷を重ねて漸次發達し、以て現時彼の富強の基を成せる盛んにして整備せる米國の地方教育と其の施設は、即ち移して以て我國教育の革新に資すべきである、今や教育の社會化、地方化、實際化の聲頻りに喧じき時に於て此の各論的具體案の詳著を得たるは斯界の慶事である。収録する所七十餘章、百餘種の插圖と對照して詳細を極む。

内務書記官  
社會局課長

田子一民著

□四六判函入最上製□  
□ポイント組四百頁□

□定價金貳圓貳拾錢□  
□全斗金合

(版再)

# 學塾院を原動力とする社會改良

□内容説□  
□明贈呈□

社會事業施設の當局に在りて唯一の實際家たる著者が、刻下の急務たる社會事業と社會改良の爲に其の各論的實行案を詳敘し、學校と宗教家を中心として其の實現方法を明示せる本書は、防貧、救貧、兒童保護、生活改善、都市町村改良、禁酒策等を具體的に論じ、歐米各國の施設と諸大家の所説を悉く收め、且つ内外に於ける各種の統計的材料及び資料を遺憾なく網羅してある。

田子社會課長著

□定價金壹圓貳拾錢□送料金八錢□

一荒宮内省參事官著

□定價金貳圓□送料八錢□

□小學校を中心地方改良□□□改

造物

語□□□

明治三十四年一月二十八日第三種郵便物認可(毎月一同十五日發行)

□番二二九一一京東替振□  
□番三三七一段九區話電□

行發社水白

□區田神市京東□  
□番二町保神南□